

米国における情報専門家養成プログラムの現状：  
ALA認定校における開講科目のカテゴリ分析  
Current educational programs of information professionals in the U.S.：  
analysis of course descriptions in ALA accredited schools

櫻木 貴子\*

Takako SAKURAGI

Abstract

The study provides principal factor of library and information science/studies (LIS) education in U.S. by analyzing 1,337 courses of master's programs in 24 LIS schools accredited by ALA in 1998. The research method was that keywords that indicated "scope", "object" or "method" of courses were extracted from course descriptions at first, and then courses were classified according to keywords. Finally, 20 categories were made.

The results of this research were as follows:

- 1) LIS programs aimed at information professionals who have specialized knowledge of specific subject.
- 2) The library was dealt with as the most major information providing organization, but diverse information was dealt with in the courses which included "information management and organization" and "information resources" categories.
- 3) Information technology influenced contents of courses which included "information management and organization", "information media", "information system" and "information transfer" categories.
- 4) In over 90% of schools, courses were held that included "information resources", "information management and organization", "information storing and retrieval", "information services", "information organization", "information systems" and "information media" categories. It is notable that a higher proportion of schools had required courses which included "information management and organization" and "information services" categories.

Two principal factors of LIS education in U.S. were found from the above results:

- 1) Knowledge on information of various disciplines and information management, and their skills as well as knowledge in information services in a library and their skills.
- 2) Basic knowledge on information retrieval and on general information systems, and their skills.

It is considered to influence the curriculums whether their names of the schools have with or without "Library". The former offers classes which deal with knowledge and skills related to conventional library services. The latter offers mainly information services with other related disciplines such as computer science. Such difference reflects different types of professions aimed by these schools.

---

\* 愛知淑徳大学大学院図書館情報学専攻

## 1. 米国における図書館情報学と教育

図書館情報学という学問は、図書館内における業務に関する知識や技術、およびそれらの裏付けとなる理論や概念を扱う図書館学と、情報そのものを研究対象とする情報学とが融合して1960年代に成立した比較的新しい分野である[1,2,3]。この分野の前身である図書館学における教育的発展を、ギトラーは、図書館内における徒弟的訓練の時代(1887年以前)、正規の養成課程、職業教育的であった時代(1887年から1923年)、および当時の大学のlibrary schoolにおける専門教育の時代(1923年～1965年)という3つに区分した[4]。1887年以前、図書館員養成教育は図書館内におけるベテランの図書館員による実際的な業務を通じて行われていた[5]。しかし、1923年に発表されたWilliamson報告[6]によって、図書館学教育が高等教育機関である大学院において図書館員養成のための専門的な教育を行うべきであるとの指摘がされた。この報告を受け、アメリカ図書館協会(American Library Association:以下ALAと表す)はlibrary schoolの組織と指導などに関する最低基準を1925年に採択した。この基準は、library schoolという教育機関、およびそこで行われる図書館学教育を初めて明確に規定したものである。特に、1951年の基準改訂では、それまでの量的基準から質的基準への転換が行われ、高等教育機関における図書館学教育が完全に実施されるようになった[7]。そして1953年、この1951年の基準に従って、ALAによるlibrary schoolにおける専門教育課程の認定(accreditation)が始められた[8]。この認定とは、政府が関与しない非営利的な活動であり[9,10]、各分野の専門家団体によって、専門教育の質的評価と質的向上を促進するために行われるものであるとされている[9]。

1960年代に入ると、図書館学に情報学が融合し、図書館情報学が成立した。図書館情報学は、メディアの特性や情報の種類、情報の流通形態など、図書館以外の情報を扱う機関においても

応用可能な概念や理論、技術を確立した。このような学問自体や社会環境の変化、図書館業務や情報サービスにおける情報技術の影響を受けて、1972年および1992年にALAの認定基準の改訂が行われた[10]。これにより、図書館情報学教育は、情報専門家としての知識や技術を発揮させる場を図書館に限らない、より幅の広い情報自体を扱う専門家の養成教育へと変貌していったのである。

現在施行されている図書館情報学プログラム認定基準は、1992年に改訂されたALA 1992 Standards for Accreditation of Master's Programs in Library and Information Studies [11] である。この認定基準の内容は、規定というよりもガイドラインである[10]。基準の中のカリキュラムに関する部分において図書館情報学教育カリキュラムは、“記録可能な情報と知識、およびそれらの管理・利用を容易にするサービスや技術に関連”[11]し、“情報や知識の生産、蓄積と検索、保存、分析、翻訳、評価、統合、頒布、管理”[11]を包含するものであると記述されており、具体的な科目名や科目内容については規定していない。したがって、各大学院において開講される科目は、先の認定基準というガイドラインに沿って各大学院の教育目標等に合わせた内容とすること認められており、各大学院における情報専門家という職種の捉え方ごとに教育内容が変化することが考えられる。

図書館情報学は、社会や図書館、情報を取り巻く環境の変化、情報に関わる技術の改良・進化、図書館・情報利用者のニーズ、情報を扱う専門職の特性変化、研究から生み出された理論を応用可能な環境の広がりなどと共に、その教育範囲が変化する[12,13,14]。本研究の目的は、ガイドラインとしての認定基準に基づいて開講されている図書館情報学修士課程プログラムから、情報専門家の養成を目的とした現代の米国の図書館情報学教育において中心的に扱われている要素を明らかにすることである。

## 2. 図書館情報学の教育内容に関する既往研究

図書館情報学教育において提供される教育内容に関する研究は、これまでも行われている [15, 16, 17, 18, 19, 20]。ここでは1999年の Association for Library and Information Science Education (図書館情報学教育協会。以下ALISE) による統計調査におけるカリキュラムに関する部分 [21] と、1980年の高山らによる研究 [22]、および1999年のJamshid Behe shtiによる研究 [24] を取り上げる。

### 2. 1 ALISEの調査

ALISEは1980年より、大学院によって提供されている図書館情報学プログラムに関する統計調査の報告書を発行している。1999年度版における調査対象は、ALAによって図書館情報学修士課程プログラムの認定を受けている大学院56校である。

カリキュラムに関する調査項目は、次の25項目である。

- 1) Academic Year
- 2) Undergraduate Degree
- 3) Master's Degree
- 4) Post-Master's Programs
- 5) Doctoral Programs
- 6) Joint Programs
- 7) Program Length
- 8) Status of Courses after Maximum Time
- 9) Residency Requirements
- 10) Required Course Work
- 11) Exemption from Required Courses
- 12) Credit Transfer
- 13) Thesis Requirements
- 14) Field Work
- 15) Graduation Requirements
- 16) Entrance Requirements
- 17) Distance Education

- 18) Faculty Compensation
- 19) Telecommunications Delivery
- 20) Individual Course Offerings
- 21) Regular and Adjunct Faculty
- 22) Faculty Teaching Load
- 23) Courses Cross-Listed with Other Units
- 24) Curriculum Committees
- 25) Curriculum Changes

ここでは、図書館情報学教育を行っている各大学院の現状を数値データから明らかにしている。したがって、図書館情報学教育を学ぶため、および修了するために必要な事柄について概略を知ることができるが、各大学において行われている教育内容の詳細は把握できなかった。

### 2. 2 日本、米国、フィリピンにおける図書館情報学教育の比較

高山らは、1980年に日本、米国およびフィリピンの3国における図書館情報学教育の現状に関する文献資料の分析を通じて、図書館情報学のあり方を探ることを目的とした研究を行った。ここではこの研究結果のうち、米国に関する部分についてのみ言及する。

ALAが1972年の基準に基づいて認定した図書館学校のうち、博士課程までを開講している21大学のカリキュラムを科目名のみから次の5部門に分類している。部門は類似科目のクラスターに細分化されている。

- 1) 基礎部門【研究・教育法、コミュニケーション、社会と図書館、比較図書館学、教育、図書館法・政策、出版】
- 2) メディア (資料) 利用部門【情報源 (資料)、サービス、メディア、利用者調査、コンピュータによるサービス、アーカイバル、文献の分析・評価】
- 3) 情報組織部門【索引・抄録、情報検索、データ・ベース、コンピュータ・プログラムとその応用、情報流通技術】
- 4) 情報システム・管理部門【管理、システ

ム, システム分析・設計・評価, 図書館機械化, ネットワーク, 図書館建築, サービス評価】

- 5) 上記の4部門には分類しにくい, 図書館学校の科目として設置されているもの【コンピュータとデータ処理, 情報学, 数学・統計, 情報伝達, 心理学・行動科学】

この5つの部門は, 1977年に日本の大学基準協会が「図書館・情報学教育基準」の中で示した専攻科目群に基づいて作成されたものであった。また, 調査対象校は, Kent [23] が作成したカリキュラムによる図書館学校の分類に基づいて, 図書館学寄りの大学院と情報学寄りの大学院というように, 4つに分類されていた。

結果として, “情報学的色彩の強い学校” は, 情報組織部門とその他・雑部門科目の比率が高く, 伝統的“図書館学の色が強い学校” は, 基礎部門と情報システム・管理部門科目の比率が高いことが明らかになった [22]。また, Southern California 大学, Chicago 大学, Syracuse 大学の開講科目の分析, および ASIS と UNESCO などによる図書館情報学のプログラムのレビューから, 図書館情報学教育の新しい動向が, 従来の図書館現象という概念では捉えきれないほど変化していることを指摘している。

### 2. 3 図書館情報学教育プログラムの主題分析

Beheshti は, 現在教育が行われている主題の概念強度マップの作成を通じて, 図書館情報学教育において提供されている概念の集中度, つまりカリキュラムにおける主題の集中を測定した。調査は1998年夏に行われ, 調査対象は ALA 認定の図書館情報学修士課程プログラム設置校中の44校であった。調査方法は次の通りである。

- 1) 各プログラムに設置されている科目の名

称および科目内容の記述から得たキーワードに基づいてリスト作成

- 2) キーワードリストから, カリキュラムにおける重要な主題を表現する語として512個を選択(修正後343個)
- 3) 各図書館情報学修士プログラムにおける語の出現の有無を示すマトリクス作成
- 4) ASIS Thesaurus of Information Science and Librarianship を参考に, 重要な概念へ語を再構成し, 57の概念から構成されるマトリクス作成

結果として, 次に挙げる14の知識と技術が図書館情報学修士課程プログラムにおいて提供されている能力の基礎となっていることが明らかになった。

- 1) Technology
- 2) Management
- 3) Organization of information
- 4) Searching and database development
- 5) Collection development
- 6) Mathematical methods and research
- 7) Sociocultural aspects
- 8) Non-print media
- 9) Rare materials and conservation
- 10) Sources of Information
- 11) Reference materials
- 12) Archives
- 13) Children literature and services
- 14) Professional issues

しかし, 科目名と科目内容の記述から重要な主題を表す語を選択し, その出現頻度を測定した後, シソーラスを用いてさらに概念の再構成を行うという方法を採用しているため, 図書館情報学教育で提供される能力の基礎である14の知識と技術のうち, Technology や Management というように具体的に何を扱っているのかははっきりわからないものがあった。また, 米国では各大学院の教育目標等に合わせた教育内容の設定が認められているが, この研究では大学院ご

との教育の特徴が把握できなかった。

## 2. 4 本研究の意義

ALISEによる統計調査における結果は、数値データを主としたものであったため、米国の図書館情報学における教育内容を深く知ることはできなかった。また、高山らによる研究は、教育内容が情報学寄りの大学院と、伝統的な図書館学寄りの大学院が存在するというを明らかにしたが、調査が行われてから既に20年が経過している。また、図書館情報学のあり方を探ることが研究目的であったが、米国の大学院で開講されている科目を既存の日本の基準を用いて分類が行われ、科目名称のみから科目内容を判断するという調査方法を採用していた。そのため、米国における図書館情報学教育の現状と詳細な内容を把握することが難しい。また、Beheshtiによる研究は、どのような知識と技術が現代の図書館情報学教育の基礎となっているかを明らかにしているが、結果として挙げられたものは非常に断片的であり、具体的に何を扱っているのかははっきりわからないものがあった。また、大学院ごとの教育の特徴が把握できない。したがって、情報専門家の養成を目的とした米国の図書館情報学教育において扱われている内容を、実際に行われている科目の内容に踏み込んで明らかにする必要がある。

## 3. ALA認定校開講科目内容調査

### 3. 1 調査目的

本調査では、米国の図書館情報学専攻大学院において開講されている科目を対象に、その内容を分析し、現在の図書館情報学教育において中心的に扱われている要素を明らかにすることを目的とした。また、調査対象国として米国を取り上げた理由は、図書館情報学とその教育に関する歴史が最も長く、その教育機関の名称や教育内容を活発に変化させているためである。

### 3. 2 調査対象

調査対象は、ALAによって図書館情報学修士課程プログラムが認定されている大学院のうち、米国に存在し、修士課程と博士課程を併設している24校とした（付録表1参照）。対象校の1998年度科目概要は、各大学院のWebサイトから入手した。Webサイトからの資料収集が困難であった大学院については、科目概要の郵送を依頼して入手した [25]。

### 3. 3 分析方法

科目名と内容説明文を基に、科目毎に「内容範囲」、「対象」、「手段」に関する主要なキーワードを3～10個抽出した。それらのキーワードを基にカテゴリを形成し、分類表を作成した（図1）。

### 3. 4 調査結果

対象校24校の講義概要に掲載されていた開講科目は1,772科目であった。そのうち435科目を除外した。除外した科目の内訳は、Thesis, Independent Study, Directed Individual Study科目や、対象、内容範囲、手段の明記がないIntroduction, Internship科目、および内容説明が未記入または通常開講されていなかった科目が205科目、修士課程以外に設置されていた科目が230科目であった。最終的に1,337科目を対象とした（付録表2）。

分析の結果、調査対象科目は20カテゴリに分類することができた（表1）。表では、カテゴリと該当科目の名称例を示した。

科目カテゴリの「学問論・概論」は、図書館学、情報学、図書館情報学の背景や役割など、この学問分野を包括的に説明し、教育・学習への導入を図る科目のカテゴリである。「専門家論」は、図書館情報学教育を通じて養成される図書館員や情報専門家の能力・役割を扱うもので、特定分野の専門家の教育的役割に関する科目もこのカテゴリに分類した。「情報伝達・流

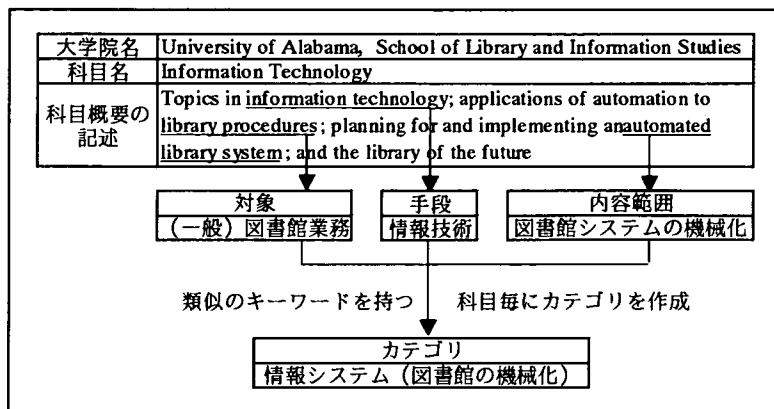


図 1 分析方法例

表 1 科目分類表

番号	カテゴリ名	該当科目名
1	学問論・概論	Foundations of Library and Information Science
2	専門家論	Introduction to Information Professionals
3	調査研究法・講読	Research Methods in Library and Information Studies
4	教育・教授法	Instructional Design and Leadership
5	情報理論	Information Theory and Transfer
6	情報リテラシー	Information Literacy and Learning Resources
7	情報管理・組織化	Theory of Organization of Information
8	情報の蓄積・検索	Online Searching and Databases
9	情報利用	Information-seeking Behavior
10	情報伝達・流通	Scholarly and Professional Communication
11	情報システム	Information Systems Analysis and Design
12	情報メディア	Audiovisual Media
13	情報資源	Materials for Children
14	情報機関	Public Libraries
15	情報機関の管理・運営	Library Personnel Administration
16	情報サービス	Library Services for Children and Young Adults
17	書誌学	Analytical Bibliography
18	複合領域	Artificial Intelligence for Information Retrieval
19	他分野	C Programming in a Client/Server Environment
20	その他	Organizational Environments

通」は、人間間や研究者間の情報流通・コミュニケーションや、出版流通などを扱う科目のカテゴリである。人間とコンピュータ間のインタラクションや、検閲、著作権を扱う科目もこのカテゴリに分類した。「情報メディア」は、様々な情報メディア自体の特性や、物理的・電子的な資料保護を扱う科目のカテゴリである。具体的には、「History of the Book」や「Preservation

in the Digital World」などの科目が含まれる。「情報資源」は情報提供機関を通した利用者や分野が特定されている情報資源を扱うカテゴリである。このカテゴリには「Library Materials for Children」や「Information Sources in the Humanities」などの科目が含まれる。「複合領域」は、図書館情報学と隣接する学問分野の両者を扱う。「他分野」は、図

書館情報学と隣接する他の学問分野における知識や技術を扱う科目のカテゴリである。コンピュータ科学や経済学、経営学などの社会科学が含まれる。「その他」は、20のカテゴリに含まれないもので、科目名や内容説明文からではどのカテゴリに分類すべきか判断できなかった科目が含まれる。

### 3. 4. 1 科目カテゴリ別の分析結果

調査対象1,337科目を科目カテゴリ別にまとめ、科目数の多い順に配列して傾向を見た。ここでは特に、科目数の多かった上位5つのカテゴリについて結果を示した。これらを取り上げたのは、これら5つのカテゴリに分類された科目の合計（755科目）が全体の約半数を占めていたためである。最も科目の多いカテゴリは「情報資源」であり、全体の17.2%（230科目）を占めた（図2）。

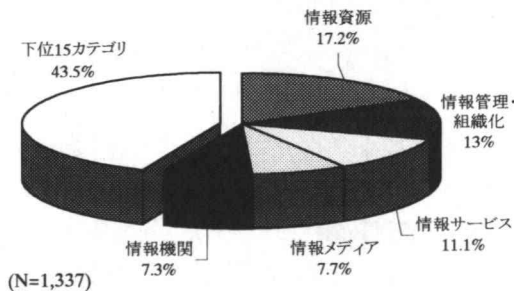


図2 科目数上位5カテゴリの内訳

このカテゴリの科目は、調査対象校全てにおいて開講されていた。科目内容を詳細にみると、図書館資料に限定した情報資源を扱う科目よりも、ヤングアダルト向け情報資源や社会科学における情報資源など、資料入手を図書館に限定せず、利用対象や対象分野を特定した科目が、このカテゴリ全体の約9割を占めた。また、児童やヤングアダルトに対する情報資源に関する科目は、特定対象・分野の資料を扱う科目全体の28.4%（58科目）を占めたが、その内12科目が学校図書館や公共図書館との関連性を示していた。これは、児童・ヤングアダルトに対する

情報資源の提供が図書館と関わりを持っていることを明確にしている。

特定の対象分野を扱っていた科目は、政府刊行物に関する科目が24校中22校で23科目、自然科学分野が20校で29科目、社会科学分野が20校で29科目、人文科学分野が19校で24科目、ビジネス分野が18校で18科目開講されていた。特に政府刊行物に関する科目の開講校が多いことは、納税者に対する政策情報の開示が重要視されている米国の状況を反映しているものであろう。学問分野別の情報資源に関する科目の開講校数が高い割合でほぼ一定であった。このことから、主題に関する専門性が高い情報専門家の養成が目標とされていることが示された。

近年非常に注目されている電子的情報資源については、これを単独で扱っている科目は1科目しか開講されておらず、電子的情報資源が従来の情報資源と同様に認識されていると考えられた。

次に科目数の多いカテゴリは「情報管理・組織化」であり、全体の13.1%（175科目）を占めた。このカテゴリにおいても「情報資源」のカテゴリと同様に、図書館資料に限定しない多様な情報や記録の管理に関する科目が約45%（79科目）と最も多くを占めた。なかでも、文書や画像等の記録の管理に関する科目は50科目が開講されていた。その内容には電子的な技術を用いた情報管理技術・方法論が多く含まれており、コンピュータ科学を背景とした情報技術の影響が見られた。

全体の11.1%（149科目）を占めた「情報サービス」では、前述のふたつのカテゴリとは異なり、サービス提供機関として図書館を取り上げている科目が64科目開講されており、このカテゴリ全体の約43%を占めた。また、このカテゴリの中で最も割合が高かったのは、ストーリーテリングやメディアプログラムなど、児童やヤングアダルトに対する情報サービスを扱う科目であった。これらの科目は、カテゴリ全体の約26%に当たる39科目が開講されており、若年層

に対する関心の高さが示された。

全体の7.7%に当たる103科目が分類された「情報メディア」では、従来の印刷体メディアよりもWebページを始めとする電子情報メディアに関する科目が最も多く、このカテゴリ全体の約28% (29科目) を占めた。このカテゴリにおいても「情報管理・組織化」と同様に、情報技術の影響が明らかだった。また、資料保存に関する科目は40科目が開講されており、これはこのカテゴリ全体の約39%に当たる。しかし、このうち半数の20科目がTexas大学で開講されており、大きな偏りが見られた。

第5位の「情報機関」には、全体の7.3%である98科目が分類された。このカテゴリでは、図書館に関する科目がこのカテゴリ全体の約87% (86科目) を占めており、図書館情報学教育において扱われている情報提供機関の主流が図書館であることが示された。特に、学校図書館に関する科目が最も多く、21科目 (カテゴリ全体の約21%) が開講されていた。「情報資源」、「情報サービス」と同様に、初等中等教育における被教育者層への関心の高さが明らかになった。

次に、上位5カテゴリには含まれないが、特徴的であったカテゴリについて結果を示す。

「他分野」というカテゴリは、全体の5.4%に当たる72科目が分類された (図3)。このカテゴリでは、コンピュータ科学に関する科目が多く、このカテゴリ全体の約81%に当たる58科目が開講されていた。特に、インターネットを始めとするネットワークの理論・構築・管理技術を扱った科目は18科目 (約31%) を占めた。

全体の3.7%に当たる49科目が分類された「情報伝達・流通」では、インターフェースを通じた人とコンピュータのインタラクションに関する科目が最も多く、約24% (12科目) を占めており、情報のやり取りを行う上でコンピュータが重要視されていることがわかった。

全科目をカテゴリ別に見た結果、米国の図書館情報学教育では、情報を提供する機関よりも提供される情報自体の特徴を重要視しており、児童やヤングアダルトに対する関心が高く、情報技術に関する知識や技術が教育内容へ大きく影響していることが明らかになった。

### 3. 4. 2 必修科目による区分

必修科目とは、各大学院が学生に必ず履修させている科目を示しており、コア科目と呼ばれるものや選択必修科目も含めた。

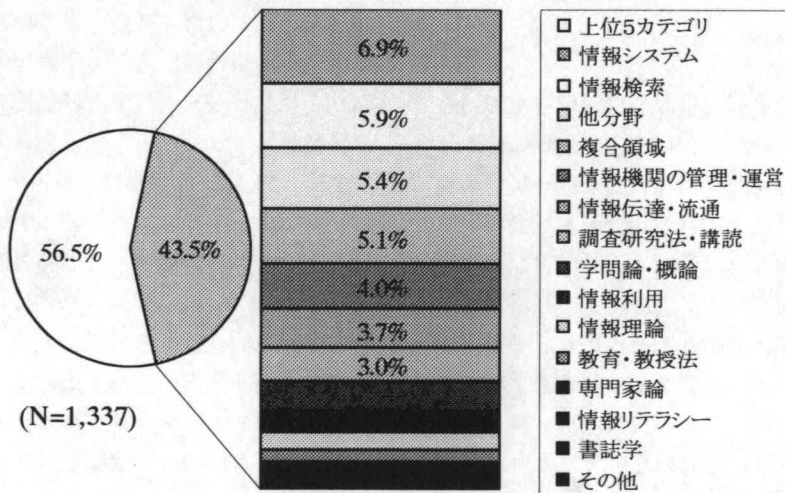


図3 科目数上位15カテゴリの内訳



最も科目数の多いカテゴリは、「情報管理・組織化」であった（図4）。科目の内容については、情報の管理と組織化に関する知識や技術を概説する科目が22科目中10科目開講されていたが、図書館資料に限定した分類や目録を扱う科目も8校で10科目開講されており、図書館という情報提供機関が図書館情報学教育にとって重要性を失っていないことが示された。

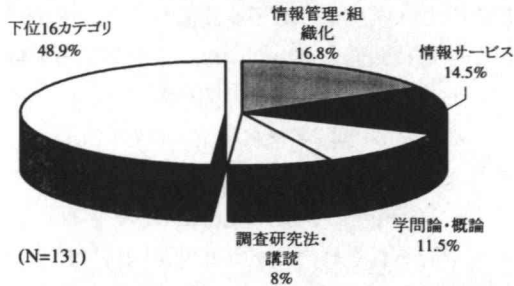


図4 必修科目数上位4カテゴリの内訳

次に科目数の多かった「情報サービス」は、19科目開講されていた。「情報管理・組織化」の結果と同様に、情報サービスに関する包括的な内容を扱う科目が最も多かった。しかし、特定の内容を扱う科目として最も多かったのは、全体の傾向の中で最多であった児童やヤングアダルトに対する情報サービスではなく、レファレンスサービスであった。

続く「学問論」は、全体的には少数の科目であったが、必修科目としては15科目開講されて

いた。この必修科目が「学問論」のカテゴリの科目総数に占める割合は44.1%で、20カテゴリ中で最も高かった（図5参照）。科目の内容を見ると、情報学に関して概説している科目が7科目、図書館情報学に関して概説している科目が8科目であり、図書館学のみを概説している科目はなかった。これは、図書館情報学は図書館学と情報学の融合した学問として成立したが、現代では図書館学は必ず情報学とともに扱われること、もしくは情報学の一部として図書館学が捉えられていることを示していると考えられた。

また、上位4カテゴリには含まなかったが、全体の傾向では図書館に関する科目がカテゴリ全体の約87%を占めた「情報機関」を見ると、開講されていた必修科目及び選択必修科目はそれぞれ3科目ずつであり、そのうち図書館を中心に扱っていた科目は4科目であった。この「情報機関」というカテゴリに分類された科目のうち、必修科目が各カテゴリ科目総数に占める割合は6.1%で、20カテゴリ中12番目であった（図5）。また、全体の科目数では最多であった「情報資源」は、必修科目は4科目、選択必修科目は1科目が開講されていた。この「情報資源」というカテゴリに分類された科目のうち、必修科目が各カテゴリ総数に占める割合は2.2%であり、20カテゴリ中15番目であった。

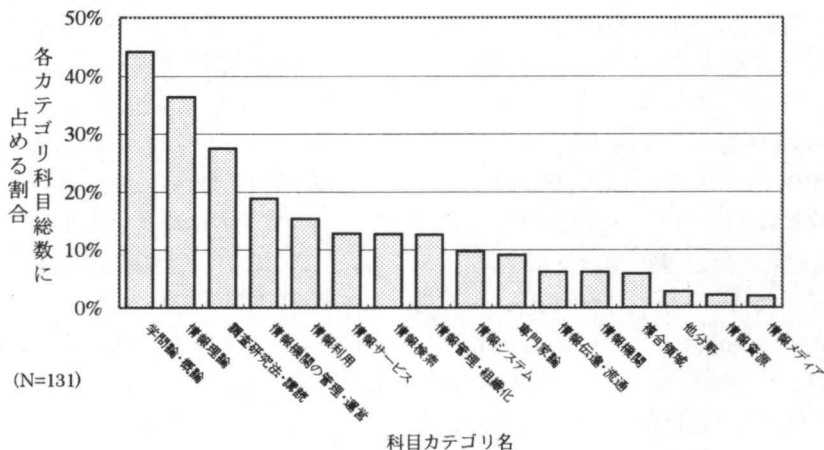


図5 各カテゴリ科目総数に占める必修科目数の割合

必修科目という最も基礎的な知識や技術を扱う科目において、情報提供機関や情報資源を扱う科目の比率が低いこと、および「情報管理・組織化」と「情報サービス」のカテゴリに必修科目が多かったことから、図書館情報学教育において重要と考えられているのは、情報提供機関や情報資源よりも情報の管理方法や提供方法ではないかと考えられる。以上のように必修科目131科目を分類すると、前述した全体の傾向とは異なり、情報管理や情報サービス、および図書館情報学という学問分野自体に関する科目が科目数の上位に挙がった。これらのカテゴリと共に、開講科目数の多かった情報資源や情報機関に関する科目も併せて、その詳細と各カテゴリに占める必修科目数の割合を見た結果、図書館情報学教育においては、情報の管理方法や提供方法に重きが置かれていることが明らかになった。また、実際の業務に関する知識や技術は図書館を主体としたものもあるが、学問としての図書館情報学は情報学側から捉えられていたことが明らかになった。

### 3. 4. 3 大学院名および学位名による区分

各大学院の修士課程プログラムはALAによって同じ基準で認定されているが、大学院の名称や大学院毎に授与する学位名は異なっている(付録表1)。ここでは、大学院名および学位名に「Library」を含む大学院と含まない大学院とに分けて結果を示した(大学と科目カテゴリで区分した開講科目数は付録表3参照)。それぞれで開講されている科目群毎に分析を行った結果、大学院名に「Library」を含まない大学院6校(Florida State大学, Michigan大学, Syracuse大学, New York State大学Albany校, Drexel大学, Tennessee大学)では、「情報の蓄積・検索」や「情報システム」、「情報メディア」および「他分野」の科目が多く設置されていた。その一方で、全体的な傾向において図書館との関わりが明らかになった「情報機関」や、

図書館を中心とした情報機関の運営に関する「情報機関の管理・運営」の科目は、大学院名に「Library」を含む大学院に多く設置される傾向が見られた(図6)。これらのような科目カテゴリの異なりは、学位名に「Library」を含む大学院と含まない大学院の間においてもほぼ同様の傾向が見られた(図7)。

特に、大学院名に「Library」を含まない大学院が含む大学院よりも多く設置していたカテゴリの科目に共通していたのは、コンピュータ科学における知識や技術との関連性であった。そのなかでも、大学院名にも学位名にも「Library」を含まないMichigan大学は際立って異なっていた。Michigan大学を「Library」を名称に含む大学院それぞれのカテゴリ別平均科目数を比較した場合、「情報メディア」では約3倍、「他分野」では約8倍の科目が開講されていた。また、「情報メディア」のカテゴリでは「Understanding SGML and XML」や「Perl Scripting and the Web」などのWebページを中心とした電子情報メディアに関する知識や技術を扱う科目が主に開講されていた。そして「他分野」のカテゴリでは「Understanding Networked Computing」や「Virtual Reality Workshop」などのコンピュータ科学に関する科目が主に開講されていた。これらの科目は、それぞれのカテゴリに分類された科目総数の約75%を占めていた。その一方で、「情報資源」においては平均の半数であり、「情報機関の管理・運営」については開講されていなかった。このように、「Library」を大学院名や学位名に含む大学院と含まない大学院には開講科目の内容の違いが見られた。「Library」を名称に含む大学院では、教育内容に図書館という情報提供機関と、そこで行われる業務に関する技能を取り上げる傾向が強く、「Library」を含まない大学院では情報技術と結びつきやすい情報システムや情報検索、情報メディアに関する技能を取り上げる傾向が強いことが明らかになった。

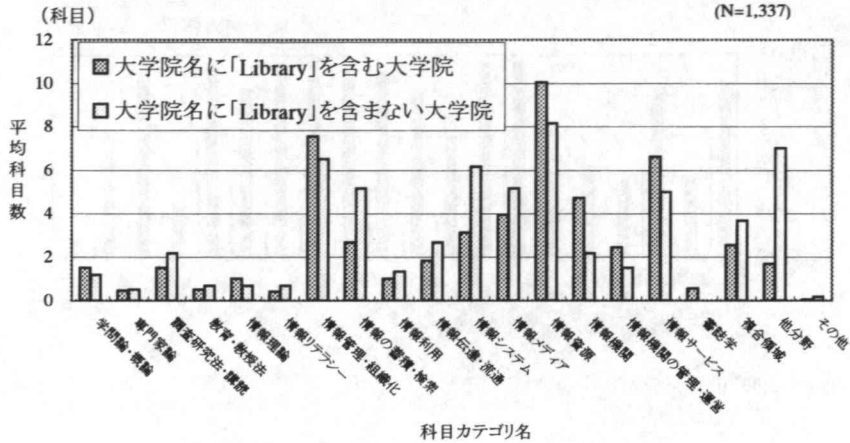


図6 大学院名称中の「Library」の有無と平均科目数の関係

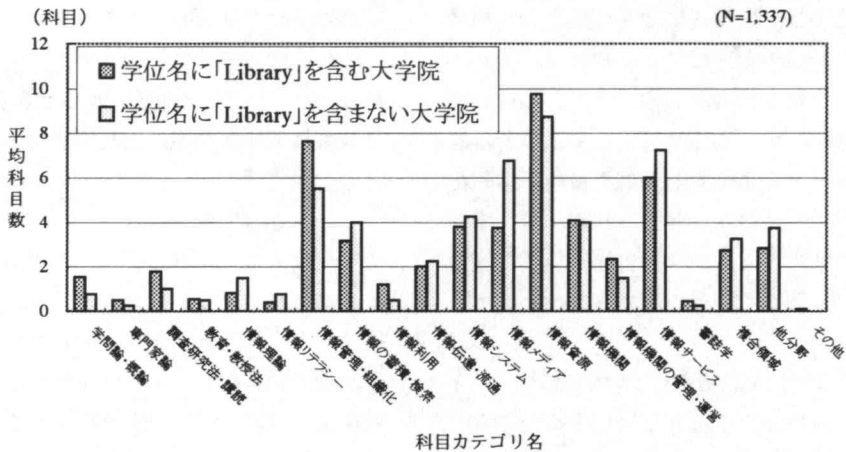


図7 学位名称中の「Library」の有無と平均科目数の関係

#### 4. 情報専門家に必要な知識と技術

各カテゴリに分類された科目が調査対象校において必修科目と選択科目のいずれで開講されていたのか、あるいは当該科目を開講していない大学院がどの程度あったのかについて検討する。

##### 4.1 全調査対象校における傾向

全開講科目を対象に科目カテゴリ別の科目設置校の割合を見た場合、開講科目数の上位5カテゴリに含まれた「情報資源」や「情報管理・

組織化」、「情報サービス」、「情報機関」および「情報メディア」は、いずれも24校中22校以上（調査対象校の90%以上）の大学院において開講されていた（図8）。

まず、科目数上位の5カテゴリについて見ると、全ての調査校において開講されていたのが「情報資源」であった。したがって、情報専門家の養成においては、分野ごとに特徴のある情報資源に関する知識を提供することが重要であると考えられる。

24校中23校（95.8%）が開講していたのは、「情報管理・組織化」、「情報サービス」および

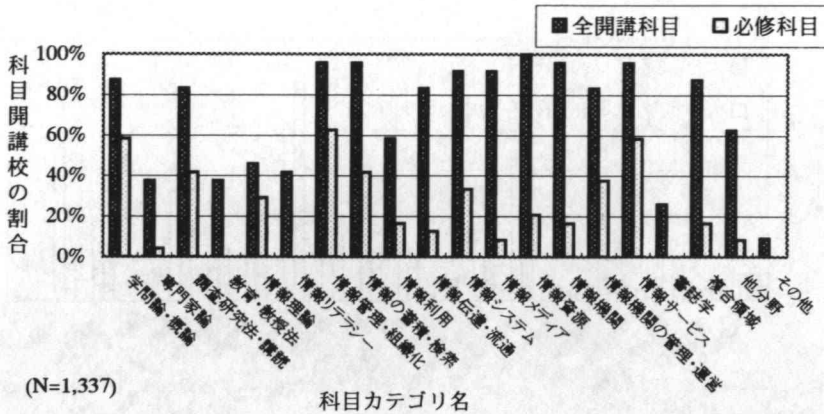


図8 科目カテゴリー別科目開講校の割合

「情報機関」であった。このことから、情報専門家の養成では、情報提供機関を限定しない多様な情報や記録の管理に関する知識や技術、図書館という情報提供機関を中心とした幅広い情報サービスに関する知識や技術、および若年層に対するサービスに関する知識や技術、情報提供機関の中でも図書館に関する知識、特に学校図書館、公共図書館、大学図書館、専門図書館のいずれかに関する知識が求められると考えられる。

22校(91.7%)で開講されていた「情報メディア」では、資料保存に関する科目をこのカテゴリ最多の16校が開講していた。また、印刷体メディアに関する科目は13校で開講され、電子情報メディアに関する科目の12校よりも多くなっていた。これは、科目数における調査結果と異なっていた。しかし、どちらか一方のみに関する科目を開講している大学も存在した。これは、電子情報メディアを他のメディアと同様に一般的なメディアとして扱おうとする姿勢と、印刷体メディアや電子情報メディアそれぞれの歴史や特性などを個別に扱おうとする姿勢の両方が存在することの現れであると考えられる。また、電子情報メディアに関する科目の開講科目数は大学院毎に偏りがあり、力を入れている大学院とそうではない大学院の差が大きかった。これらのことから、情報専門家は図書館を中心とし

た情報提供機関における情報メディアの保存・保護に関する知識や技術と、従来最も普及している印刷体メディア、および近年急増を続け、情報メディアとして定着し始めた電子情報メディア双方に関する知識が求められていると考えられる。

これら5つのカテゴリの他に、科目数では上位5つに入らなかったが、90%を越える大学院で開講されていたカテゴリは、「情報の蓄積・検索」と「情報システム」であった。

23校で開講されていた「情報検索」では、情報検索の理論や技術、およびデータベースの理論や構築方法に関する科目の両者が19校以上で開講されていた。したがって、情報検索に関する全般的な知識と技術は情報専門家に強く求められているものであると考えられる。

「情報システム」は22校で開講され、図書館の機械化に関する科目を扱う大学院よりも、情報システムの理論や、ネットワークに関する知識を扱う科目を開講していた大学院が多かった。したがって、情報専門家には、汎用性の高い情報システムに関する知識や技術が求められ、それを図書館などの特定の情報提供機関に応用するための知識が必要であると考えられる。

また、多くの大学院で開講されている科目ほど、情報専門家に必要な知識と技術を含んでいるものとして広く認識されていると考えられる。

そのなかでも、学生が必ず履修しなければならない必修科目に、特に重要と捉えられている知識や技術が含まれているといえる。図8には、各カテゴリに分類された必修科目が調査対象校のうちの何校において開講されているのについても示した。その結果、12校以上（調査対象校の50%以上）の大学院で開講されていたのは、「情報管理・組織化」、「学問論・概論」および「情報サービス」であった。全開講科目を対象に開講校の割合が高かった「情報資源」や「情報機関」は、それぞれ5校と4校で必修科目に指定されているだけであった。

これらのことから、学問分野に関する知識を学生に提供するための導入科目としての「学問論・概論」や、学習を効果的に進め、学生が行う研究の技術的基盤となる「調査研究法・講読」を考慮しないことにすると、情報専門家には多様な情報や記録の管理に関する知識や技術と、主として図書館における幅広い情報サービスに関する知識や技術が最も求められる能力であると考えられる。その次に情報検索に関する全般的な知識と技術、汎用性の高い情報システムに関する知識や技術が求められている。図書館に関する知識、情報専門家が利用者あるいは顧客に対して提供する資料や情報提供を行う機関については、扱われる分野や館種が細分化されているため科目数は多いが、上記4つの能力に次いで情報専門家に要求されるものであると考えられる。

#### 4. 2 大学院名称中の「Library」の有無と科目カテゴリとの関連性

調査対象校を大学院名に「Library」を含む大学院と含まない大学院とに分け、それぞれの大学院において重要と考えられている知識や技術の傾向を掴むため、科目カテゴリ別の科目設置校の割合を比較した（図9および図10）。

大学院名に「Library」を含む大学院では、全開講科目を対象にした場合、18校中17校以上

（90%以上）で開講されていた科目の所属するカテゴリは「情報資源」、「情報管理・組織化」、「情報検索」、「情報機関」、「情報サービス」であった。これは、調査対象校の全てを対象とした上記の結果とほぼ同様であったが、「情報システム」と「情報メディア」に関する科目は含まれなかった。必修科目を対象にした場合、半数以上の大学院で開講されていた科目が分類されたカテゴリは「学問論・概論」、「情報管理・組織化」および「情報サービス」であった。

一方、大学院名に「Library」を含まない大学院では、全開講科目を対象に見た場合、「情報資源」、「情報管理・組織化」、「情報検索」、「情報機関」、「情報サービス」、「情報システム」、「情報メディア」、「複合領域」のカテゴリが全大学院において開講されていた。必修科目を対象にした場合、「Library」を含む大学で開講されていた科目のカテゴリに加えて「調査研究法・講読」、「情報検索」、「情報システム」、「情報機関の管理・運営」が開講されていた。この傾向と、高山らの研究において明らかになった「情報学的色彩」[22]の強い大学院の科目内容の傾向とは、情報検索やデータベースに関する科目、およびコンピュータ科学と関わる科目の比率が高い点で類似していた。

また、「Library」を含む大学院では約20%の大学院が必修科目として開講していた「情報資源」と「情報機関」は、「Library」を含まない大学院において必修科目としての開講校の割合が低く、特に「情報機関」を必修科目にしている大学院はなかった。

これらのことから、大学院名に「Library」を含む大学院では、図書館という情報提供機関が行う情報の組織化から提供に関わる知識や技術が中心に扱われ、「Library」を含まない大学院では、電子的な情報技術を用いて情報を管理し、検索し、様々な情報提供機関で応用される情報システムを用いた情報提供サービスに関わる知識や技術を中心に扱っていると考えられた。各大学院において行われている教育内容が

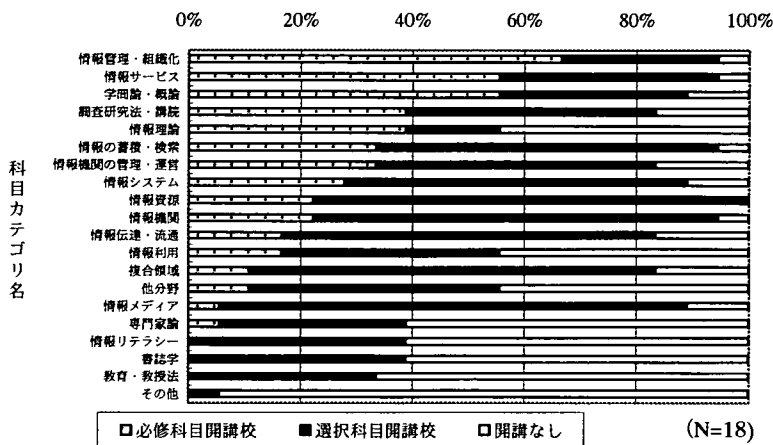


図9 科目カテゴリ別科目開講校の割合  
(大学院名に「Library」を含む大学院)

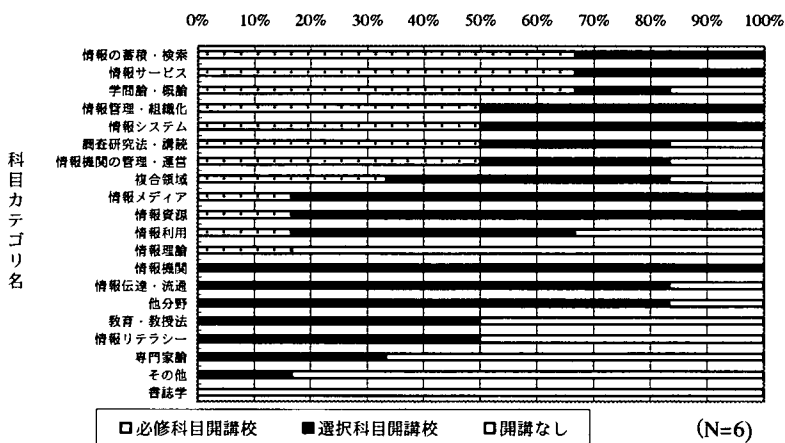


図10 科目カテゴリ別科目開講校の割合  
(大学院名に「Library」を含まない大学院)

伝統的な図書館学を中心とした教育であるのか、あるいはコンピュータ科学などの周辺領域とも結びつきやすい情報自体を扱う情報学を中心とした教育であるのかによって、情報専門家養成のためのカリキュラムも異なっていると考えてよい。

5. 結論

ALA認定校の修士課程における開講科目の調査から、分野や利用対象ごとに科目が開講されていた「情報資源」に関する科目が最も多く、

主題や関する専門性が高い情報専門家の養成が目標とされていることが明らかになった。情報提供機関として中心的に扱われていたのは図書館であったが、「情報管理・組織化」や「情報資源」に関する科目において扱われていたのは図書館資料にとどまらず、多様な情報が扱われていることが示された。また、「情報管理・組織化」や「情報メディア」、「情報システム」、「情報伝達」に関する科目では、情報技術が科目内容に大きく影響を及ぼしていた。科目カテゴリ別に科目開講校の割合を見た場合、「情報資源」や「情報管理・組織化」、「情報検索」、

「情報サービス」、「情報機関」、「情報システム」および「情報メディア」に関する科目の開講校が90%を超えた。中でも「情報管理・組織化」と「情報サービス」は必修科目として開講していた大学院の割合が高かった。

これらのことから、米国の図書館情報学教育において扱われている中心的な要素は、多様な分野や利用者を対象とした情報や記録の管理に関する知識や技術と、主として図書館における幅広い情報サービスに関する知識や技術であると考えた。次いで、情報検索に関する全般的な知識と技術、汎用性の高い情報システムに関する知識や技術が求められると考えた。そして、図書館資料に限らず、メディアを問わず、様々な分野や利用者それぞれの特性を踏まえた多様な情報を扱うことのできる情報専門家を養成するのに必要な教育が行われていると考えた。

大学院名に「Library」を含む大学院と含まない大学院では、開講科目において中心的に扱われている内容が異なっており、前者においては図書館を中心とした情報提供機関における業務に関する知識や技術に重点が置かれ、後者においてはコンピュータ科学などの周辺領域とも結びつきやすい情報自体を扱う情報学を中心とした教育が行われていた。このような違いは、各大学院が養成しようとする情報専門家の種類の違いを反映していると考えられ、米国の図書館情報学教育が図書館員だけでなく情報専門家全般の養成を目指しているものであるといえよう。

本調査のデータ収集を行った1998年以降、調査対象校において大学院名変更があり [26]、ALAの図書館情報学修士課程プログラム認定基準についても見直しが検討され始めている。ALISEによる1999年度の調査においては、プログラムの全面的な改訂や再検討を行う大学院の存在が浮き彫りとなった [21]。このような図書館情報学教育を取り巻く環境の変化とそれに伴う教育の変化については、今後とも注目していくべきであろう。

また、全体的な傾向から明らかになった児童・生徒に対する学校図書館を始めとする情報提供機関と、そのサービスを行う図書館員などの情報専門家を重視する調査対象校の姿勢から、学校教育と図書館との結びつきが非常に強いことが示された。米国におけるこのような状況は、学校図書館法の改正や情報活用能力に関する教育への学校図書館や司書教諭の関わりの強化などによって、変化の著しい我が国における児童・生徒に対する情報サービスの参考となり得るものである。

本論文は1999年度愛知淑徳大学大学院文学研究科修士論文「図書館情報学における学問領域と教育内容の関連性：ALA認定校のカリキュラム分析」のデータを再構成し、改訂したものである。

本論文の執筆に当たって、ご指導ご助言いただいた愛知淑徳大学文学部図書館情報学科の菅野育子助教授に深く感謝の意を表する。

## 文献リスト

- 1) 日本図書館学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 東京, 丸善, 1997, 244p.
- 2) 図書館情報学ハンドブック編集委員会. 図書館情報学ハンドブック. 東京, 丸善, 1999, 1145p.
- 3) 櫻木貴子. 図書館情報学における学問領域と教育内容の関連性：ALA認定校のカリキュラム分析. 1999年度愛知淑徳大学大学院文学研究科修士論文. 116p.
- 4) Gitler, Robert L. 図書館学教育の基準と認定. *Library Science*, no.3, 1965, p.159-165.
- 5) 桜井宣隆. 図書館情報学教育における情報学の位置：アメリカ・カナダの図書館情報学教育の動向を基礎にして. 図書館情報学大学研究報告. vol.6, no.1, 1987,

- p.119-142.
- 6) Metuchen, N. J. *The Williamson reports of 1921 and 1923 : including training for library work (1921) and training for library service (1923)*. Scarecrow Press, 1971, 276p, 165p.
  - 7) 今まど子. アメリカの図書館学教育基準. 人文研紀要. 中央大学人文科学研究所, no.7, 1988, p.113-149.
  - 8) 宮部頼子. 米国の“ライブラリー・スクール” : 存亡を賭けた, 変化への挑戦. 白百合女子大学研究紀要. 白百合女子大学, no.34, 1998, p.21-40.
  - 9) Robbins, Jane B. Standards for accreditation, 199X. *Journal of Library Administrations*. vol.16, no. 1/2, 1992, p.5-12.
  - 10) Summers, F. William. Accreditation and the American Library Association. [cited 1999-11-24]. Available from URL: <[http://www.ala.org/congress/summers\\_print.html](http://www.ala.org/congress/summers_print.html)>.
  - 11) American Library Association. “Appendix B : ALA Standards for Accreditation of Master’s Programs in Library and Information Studies.” *The Closing of American Library Schools: Problems and Opportunities*. Ostler, Larry J. ; Dahlin, Therrin C. ; Willardson, J. D. London, Greenwood Press, 1995, 159p.
  - 12) Prentice, Ann E. Professional Programs in the University : A View from Not Quit the Top. *Journal of Education for Library and Information Science*. vol.33, no.4, 1992, p.284-286.
  - 13) Ceppos, Karen F. Innovation and Survival in Schools of Library and Information Science. *Journal of Education for Library and Information Science*. vol.33, no.4, 1992, p.277-283.
  - 14) Huber, Jeffrey T. Library and Information Studies Education for the 21st Century Practitioner. *Library Administration*. vol.19, no.1, 1995, p.119-130.
  - 15) Buttlar, Lois. ; Du Mont, Rosemary. Library and Information Science competencies revisited. *Journal of Education for Library and Information Science*. vol.36, no.1, 1995, p.44-62.
  - 16) White, Hervert S. ; Mort, Sarah L. The accredited library education program as preparation for professional library work. *Library Quarterly*. vol. 60, no.3, 1990, p.187-215.
  - 17) Sutton, Brett. Understanding scientific knowledge and communication : Library and Information Science in the undergraduate curriculum . *Journal of Education for Library and Information Science*. vol.36, no. 1, 1995, p.11-29.
  - 18) Carroll, Dewey E. Undergraduate education for Library and Information Studies. *Library Administration*. vol. 16, no.1/2, 1992, p.19-28.
  - 19) 倉橋英逸ほか. 21世紀の情報専門職を目指して : カナダとアメリカ合衆国における図書館情報学教育と情報環境. 吹田, 関西大学出版部, 1998, 296p.
  - 20) 魚住英子. ALA認可ライブラリースクールにおける図書館情報学教育 : ハワイ大学大学院を中心に. 同志社大学図書館学年報. no.21, 1995, p.17-21.
  - 21) Association for Library and Information Science Education . Library and information science education statistical report 1999. [cited 2000-03-03]. Available from URL : <<http://ils.unc.edu/ALISE/1999/Contents.htm>>.



- 22) 高山正也；長田秀一；西荒井学. 図書館・情報学教育関係資料の分析. *Library and Information Science*. no.18, 1980, p.1-28.
- 23) Kent, Allen. "Objectives for Information Science Education." *Bulletin of the ASIS*. vol.3, no.6, 1977, p.14-15.

【Kentによるlibrary schoolの分類】

- ① established librarianship-wishing only to exhibit that they are "with it" by having one course in the catalog as "proof"
- ② established librarianship-but worried they may be left behind, and wishing to "test the water" by an initial commitment to a full faculty slot
- ③ one or more aspects of information science-desiring to develop greater strength
- ④ teaching and scholarly research at a fundamental level-examining the basic character of the information-transfer (communication) process in libraries and other information-exchange environments
- 24) Beheshti, Jamshid. Library and information studies curriculum. [cited 2000-03-06]. Available from URL: <<http://www.gslis.mcgill.ca/Beheshti/alacais4.htm>>.
- 25) 調査対象校のWebサイトおよび科目概要の書誌事項
- University of Alabama. University of Alabama School of Library and Information Studies. [cited 1999-10-15]. Available from URL: <<http://www.slis.ua.edu/>>.
  - University of Arizona. University of Arizona-School of Information

- Resources and Library Science. [cited 1999-10-15]. Available from URL: <<http://www.sir.arizona.edu/>>.
- University of California, Los Angeles. UCLA Department of Library & Information Science [cited 1998-12-11]. Available from URL: <<http://dlis.gseis.ucla.edu/>>.
  - Florida State University. Information Studies Home Page. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <[wysiwyg://main.94/http://www.fsu.edu/lis/main.html](http://wysiwyg://main.94/http://www.fsu.edu/lis/main.html)>.
  - University of Hawaii. 1997-1999 UHM General Information Catalog. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.hawaii.edu/catalog/welcome.html>>.
  - University of Illinois at Urbana-Champaign. Master of Science Degree Program. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://alexia.lis.uiuc.edu/gslis/program/ms.html>>.
  - Indiana University. Indiana University School of Library and Information Science. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.slis.indiana.edu/>>.
  - Emporia State University. School of Library and Information Management. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.slim.emporia.edu/>>.
  - University of Maryland. University of Maryland (CLIS) : Home Page. [cited 1998-04-21]. Available from URL: <<http://www.clis.umd.edu/>>.
  - University of Michigan. University of Michigan School of Information. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.si.umich.edu/>>.
  - Rutgers University. liscourses.html. [cited 1998-10-15]. Available from URL:

- <<http://www.scils.rutgers.edu/lis/courses.html>>.
- University of Long Island. Palmer School of Library and Information Science: Graduate Bulletin 1997-1998. New York, Long Island University, 1997, 30p.
  - Syracuse University. School of Information Studies: General Information. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <[wysiwyg://495/http://istweb.syr.edu/des.../degrees/grad/mls/mls.general\\_info.html](http://wysiwyg://495/http://istweb.syr.edu/des.../degrees/grad/mls/mls.general_info.html)>.
  - University of Albany, New York State University. University of Albany, New York State University: School of Information Science and Policy Course Descriptions. New York, 1997, 9p.
  - University of Buffalo, New York State University. SILS. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.sils.buffalo.edu/>>.
  - North Carolina University at Chapel Hill. North Carolina University at Chapel Hill: School of Information and Library Science 1998. North Carolina, North Carolina University at Chapel Hill, 1998, 52p.
  - Drexel University. Drexel University: College of Information Science and Technology. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.cis.drexel.edu/>>.
  - University of Pittsburgh. School of Information Sciences. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www2.sis.pitt.edu/>>.
  - University of Tennessee, Knoxville. The School of Information Sciences, UT Knoxville. [cited 1998-10-15]. Available from URL:
- <<http://www.sis.utk.edu/>>.
- Office of Admissions Texas Woman's University. Texas Woman's University 1998-2000 Graduate Catalog. Texas, Texas Woman's University, vol.98, no.2, 1997, 394p.
  - North Texas University. School of Library and Information Sciences, University of North Texas Home Page. [cited 1998-10-15]. Available from URL: <<http://www.unt.edu/slisis/>>.
  - University of Texas at Austin. GSLIS Goals and Objectives, June 1998. [cited 1998-12-11]. Available from URL: <<http://fiat.gslis.utexas.edu/program/announce/goals.html>>.
  - University of Wisconsin-Madison. School of Library and Information Studies. 1997, Wisconsin University of Wisconsin-Madison, 8p.
  - University of Wisconsin-Milwaukee. SLIS Bulletin: School of Library and Information Science 1997-98. Wisconsin, University of Wisconsin-Milwaukee, 1997, 48p.
- 26) Bates, Marcia J. Statement from the UCLA Department of Information Studies on LIS curricula for the ALA congress on professional education. [cited 2000-03-06]. Available from URL: <[http://www.ala.org/congress.ucla\\_print.html](http://www.ala.org/congress.ucla_print.html)>.
- 本調査のデータ収集後、UCLAは大学院名称をGraduate school of Education and Information Studies, Department of Library and Information ScienceからGraduate school of Education and Information Studies, Department of Information Studiesへ変更し、カリキュラムも変化した。

米国における情報専門家養成プログラムの現状：ALA認定校における開講科目のカテゴリ分析

〈付録〉

表1 調査対象校

番号	大学名略称	大学名	大学院名	学位名
1	Alabama	University of Alabama	School of Library and Information Studies	Master of Library and Information Studies
2	Arizona	University of Arizona	School of Information Resources and Library Science	Master of Arts
3	UCLA	University of California, Los Angeles	Graduate School of Education & Information Studies, Department of Library and Information Science	Master of Library and Information Science
4	Florida State	Florida State University	School of Information Studies	Master of Science in Library and Information Studies Master of Arts
5	Hawaii	University of Hawaii at Manoa	Library and Information Science Program	Master of Library and Information Studies
6	Illinois	University of Illinois at Urbana-Champaign	Graduate School of Library and Information Science	Master of Science
7	Indiana	Indiana University	School of Library and Information Science	Master of Library Science
8	Emporia State	Emporia State University	School of Library and Information Management	Master of Library Science
9	Maryland	University of Maryland	College of Library and Information Services	Master of Library Science
10	Michigan	University of Michigan	School of Information	Master of Information
11	Rutgers	Rutgers University	School of Communication, Information and Library Studies	Master of Library Service
12	Long Island	Long Island University	Palmer School of Library and Information Science	Master of Science in Library and Information Science
13	Syracuse	Syracuse University	School of Information Studies	Master of Library Science
14	SUNY Albany	State University of New York at Albany	School of Information Science and Policy	Master of Library Science
15	SUNY Buffalo	State University of New York at Buffalo	School of Information and Library Studies	Master of Information and Library Science
16	North Carolina	University of North Carolina at Chapel Hill	School of Information and Library Science	Master of Science in Library Science
17	Drexel	Drexel University	College of Information Science and Technology	Master of Science, Library and Information Science
18	Pittsburgh	University of Pittsburgh	School of Information Sciences, Department of Library and Information Studies	Master of Library and Information Science
19	Tennessee	University of Tennessee	School of Information Sciences	Master of Science
20	Texas Woman's	Texas Woman's University	School of Library and Information Studies	Master of Library Science Master of Arts in Library Science
21	North Texas	University of North Texas	School of Library and Information Sciences	Master of Science
22	Texas	University of Texas at Austin	Graduate School of Library and Information Science	Master of Library and Information Science
23	Wisconsin-Ma	University of Wisconsin at Madison	School of Library and Information Studies	Master of Arts
24	Wisconsin-Mi	University of Wisconsin at Milwaukee	School of Library and Information Science	Master of Library and Information Science

表2 調査対象科目数

番号	大学名略称	開講科目 総数	調査除外科目			調査対象 科目総数
			内容不記載 非常科目	博士課程 科目	その他	
1	Alabama	68	0	15	0	53
2	Arizona	40	19	1	0	20
3	UCLA	84	4	6	2	72
4	Florida State	62	9	11	0	42
5	Hawaii	55	9	0	0	46
6	Illinois	85	29	9	1	46
7	Indiana	78	3	9	0	66
8	Emporia State	56	5	16	0	35
9	Maryland	88	21	3	3	61
10	Michigan	89	10	6	2	71
11	Rutgers	80	2	31	0	47
12	Long Island	72	4	15	0	53
13	Syracuse	88	4	3	0	81
14	SUNY Albany	70	16	9	0	45
15	SUNY Buffalo	47	8	0	0	39
16	North Carolina	96	16	7	0	73
17	Drexel	75	1	1	0	73
18	Pittsburgh	82	2	15	9	56
19	Tennessee	59	8	0	0	51
20	Texas Woman's	63	9	15	0	39
21	North Texas	77	4	14	0	59
22	Texas	117	17	16	0	84
23	Wisconsin-Ma	58	2	6	0	50
24	Wisconsin-Mi	83	3	2	3	75
合計		1,772	205	210	20	1,337

※注 調査除外科目の“その他”には、学部・他課程・学外生用科目、受講者制限なしの科目、不明科目が含まれる。

表 3-A 開講科目数 (カテゴリおよび大学別)

番号	カテゴリ名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	平均
1	学問論・概論	3	1	4	2	1	1	2	0	1	0	3	2	2	1	1	1	1	0	1	2	1	2	1	1	1.4
2	専門家論	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0.5
3	調査研究法・講読	1	2	2	2	2	0	3	2	1	0	0	2	5	1	1	1	4	1	1	1	3	0	4	1	1.7
4	教育・教授法	1	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0.5
5	情報理論	0	5	1	0	0	1	3	0	1	0	2	0	0	0	0	2	0	1	4	0	1	0	1	0	0.9
6	情報リテラシー	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0.5
7	情報管理・組織化	5	0	13	7	7	4	10	2	9	5	6	10	9	7	7	8	6	11	5	5	8	14	8	9	7.3
8	情報の蓄積・検索	1	0	4	4	3	2	3	1	3	6	4	3	6	3	3	4	8	2	4	3	4	2	3	3	3.3
9	情報利用	0	1	1	1	0	0	1	5	2	2	3	0	3	0	0	1	2	1	0	0	1	2	0	1	1.1
10	情報伝達・流通	2	2	5	0	2	1	2	3	3	4	1	1	4	2	2	3	2	0	4	0	0	3	2	1	2.0
11	情報システム	4	3	2	3	3	5	6	2	6	4	2	0	10	3	1	6	12	1	5	5	3	4	0	3	3.9
12	情報メディア	5	0	2	2	3	4	1	4	2	12	2	5	1	4	0	2	5	4	7	2	4	24	2	5	4.3
13	情報資源	6	3	16	9	12	11	10	1	10	5	12	9	5	13	6	12	10	11	7	6	12	10	11	23	9.6
14	情報機関	10	1	4	1	1	1	7	0	5	3	2	5	2	2	8	6	1	2	4	5	8	5	7	8	4.1
15	情報機関の管理・運営	0	0	2	3	2	0	2	3	0	2	2	3	1	1	4	1	7	1	3	3	3	3	4	2	2.2
16	情報サービス	11	0	9	2	5	12	8	3	10	8	4	9	9	2	6	7	6	6	3	5	6	4	5	9	6.2
17	書誌学	1	1	4	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.4
18	複合領域	2	0	2	2	3	1	2	4	1	3	1	2	8	2	0	3	3	4	4	0	5	8	1	7	2.8
19	他分野	1	1	0	3	0	0	4	4	2	15	1	0	12	3	2	10	9	3	0	0	0	2	0	0	3.0
20	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1
	合計	53	20	72	42	46	46	66	35	61	71	47	53	81	45	39	73	73	56	51	39	59	84	50	75	55.7

表 3-B 大学院名に「Library」を含む大学院の開講科目数 (カテゴリおよび大学別)

番号	カテゴリ名	1	2	3	5	6	7	8	9	11	12	15	16	18	20	21	22	23	24	平均	
1	学問論・概論	3	1	4	1	1	2	0	1	3	2	1	1	0	2	1	2	1	1	1	1.5
2	専門家論	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0.4
3	調査研究法・講読	1	2	2	2	0	3	2	1	0	2	1	1	1	1	3	0	4	1	1.5	
4	教育・教授法	1	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0.5	
5	情報理論	0	5	1	0	1	3	0	1	2	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1.0	
6	情報リテラシー	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0.4	
7	情報管理・組織化	5	0	13	7	4	10	2	9	6	10	7	8	11	5	8	14	8	9	7.6	
8	情報の蓄積・検索	1	0	4	3	2	3	1	3	4	3	3	4	2	3	4	2	3	3	2.7	
9	情報利用	0	1	1	0	0	1	5	2	3	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1.0	
10	情報伝達・流通	2	2	5	2	1	2	3	3	1	1	2	3	0	0	0	3	2	1	1.8	
11	情報システム	4	3	2	3	5	6	2	6	2	0	1	6	1	5	3	4	0	3	3.1	
12	情報メディア	5	0	2	3	4	1	4	2	2	5	0	2	4	2	4	24	2	5	3.9	
13	情報資源	6	3	16	12	11	10	1	10	12	9	6	12	11	6	12	10	11	23	10.1	
14	情報機関	10	1	4	1	1	7	0	5	2	5	8	6	2	5	8	5	7	8	4.7	
15	情報機関の管理・運営	0	0	2	3	2	0	2	3	2	2	1	4	7	3	3	3	3	4	2.4	
16	情報サービス	11	0	9	5	12	8	3	10	4	9	6	7	6	5	6	4	5	9	6.6	
17	書誌学	1	1	4	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0.6	
18	複合領域	2	0	2	3	1	2	4	1	1	2	0	3	4	0	5	8	1	7	2.6	
19	他分野	1	1	0	0	0	4	4	2	1	0	2	10	3	0	0	2	0	0	1.7	
20	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1	
	合計	53	20	72	46	46	66	35	61	47	53	39	73	56	39	59	84	50	75	54.1	

表 3-C 大学院名に「Library」を含まない大学院の開講科目数 (カテゴリおよび大学別)

番号	カテゴリ名	4	10	13	14	17	19	平均
1	学問論・概論	2	0	2	1	1	1	1.2
2	専門家論	1	0	0	2	0	0	0.5
3	調査研究法・講読	2	0	5	1	4	1	2.2
4	教育・教授法	0	2	1	1	0	0	0.7
5	情報理論	0	0	0	0	0	4	0.7
6	情報リテラシー	0	2	0	0	1	1	0.7
7	情報管理・組織化	7	5	9	7	6	5	6.5
8	情報の蓄積・検索	4	6	6	3	8	4	5.2
9	情報利用	1	2	3	0	2	0	1.3
10	情報伝達・流通	0	4	4	2	2	4	2.7
11	情報システム	3	4	10	3	12	5	6.2
12	情報メディア	2	12	1	4	5	7	5.2
13	情報資源	9	5	5	13	10	7	8.2
14	情報機関	1	3	2	2	1	4	2.2
15	情報機関の管理・運営	3	0	3	1	1	1	1.5
16	情報サービス	2	8	9	2	6	3	5.0
17	書誌学	0	0	0	0	0	0	0.0
18	複合領域	2	3	8	2	3	4	3.7
19	他分野	3	15	12	3	9	0	7.0
20	その他	0	0	1	0	0	0	0.2
	合計	42	71	81	45	73	51	60.5

米国における情報専門家養成プログラムの現状：ALA認定校における開講科目のカテゴリ分析

表3-D 学位名に「Library」を含む大学院の開講科目数（カテゴリおよび大学別）

番号	カテゴリ名	1	2	3	4	5	7	8	9	11	12	13	14	15	16	17	18	20	22	23	24	平均
1	学問論・概論	3	1	4	2	1	2	0	1	3	2	2	1	1	1	1	0	2	2	1	1	1.6
2	専門家論	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0.5
3	調査研究法・講読	1	2	2	2	2	3	2	1	0	2	5	1	1	1	4	1	1	0	4	1	1.8
4	教育・教授法	1	0	1	0	0	2	0	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0.6
5	情報理論	0	5	1	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0.8
6	情報リテラシー	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	0.4
7	情報管理・組織化	5	0	13	7	7	10	2	9	6	10	9	7	7	8	6	11	5	14	8	9	7.7
8	情報の蓄積・検索	1	0	4	4	3	3	1	3	4	3	6	3	3	4	8	2	3	2	3	3	3.2
9	情報利用	0	1	1	1	0	1	5	2	3	0	3	0	0	1	2	1	0	1	2	0	1.2
10	情報伝達・流通	2	2	5	0	2	2	3	3	1	1	4	2	2	3	2	0	0	3	2	1	2.0
11	情報システム	4	3	2	3	3	6	2	6	2	0	10	3	1	6	12	1	5	4	0	3	3.8
12	情報メディア	5	0	2	2	3	1	4	2	2	5	1	4	0	2	5	4	2	24	2	5	3.8
13	情報資源	6	3	16	9	12	10	1	10	12	9	5	13	6	12	10	11	6	10	11	23	9.8
14	情報機関	10	1	4	1	1	7	0	5	2	5	2	2	8	6	1	2	5	5	7	8	4.1
15	情報機関の管理・運営	0	0	2	3	3	0	2	3	2	2	3	1	1	4	1	7	3	3	3	4	2.4
16	情報サービス	11	0	9	2	5	8	3	10	4	9	9	2	6	7	6	6	5	4	5	9	6.0
17	書誌学	1	1	4	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.5
18	複合領域	2	0	2	2	3	2	4	1	1	2	8	2	0	3	3	4	0	8	1	7	2.8
19	他分野	1	1	0	3	0	4	4	2	1	0	12	3	2	10	9	3	0	2	0	0	2.9
20	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0.1
	合計	53	20	72	42	46	66	35	61	47	53	81	45	39	73	73	56	39	84	50	75	55.5

表3-E 学位名に「Library」を含まない大学院の開講科目数（カテゴリおよび大学別）

番号	カテゴリ名	6	10	19	21	平均
1	学問論・概論	1	0	1	1	0.8
2	専門家論	0	0	0	1	0.3
3	調査研究法・講読	0	0	1	3	1.0
4	教育・教授法	0	2	0	0	0.5
5	情報理論	1	0	4	1	1.5
6	情報リテラシー	0	2	1	0	0.8
7	情報管理・組織化	4	5	5	8	5.5
8	情報の蓄積・検索	2	6	4	4	4.0
9	情報利用	0	2	0	0	0.5
10	情報伝達・流通	1	4	4	0	2.3
11	情報システム	5	4	5	3	4.3
12	情報メディア	4	12	7	4	6.8
13	情報資源	11	5	7	12	8.8
14	情報機関	1	3	4	8	4.0
15	情報機関の管理・運営	2	0	1	3	1.5
16	情報サービス	12	8	3	6	7.3
17	書誌学	1	0	0	0	0.3
18	複合領域	1	3	4	5	3.3
19	他分野	0	15	0	0	3.8
20	その他	0	0	0	0	0.0
	合計	46	71	51	59	56.8